

## 北韓核実験に対する反対声明

私たち、在日本大韓民国青年会は、綱領に掲げる祖国の平和統一と世界平和への寄与の観点のもと、先日、2017年9月3日、国際社会の度重なる制裁にもかかわらず、北韓は6回目の核実験を強行したことに対して強く反対します。

先月8月29日午前5時58分、北韓は平壤郊外の順安区域から北東方向に弾道ミサイル1発を発射し、約2700キロメートル飛行して北海道の襟裳岬上空を通過、午前6時12分ごろ襟裳岬の東約1180キロメートルの太平洋上に落下しました。日本政府はミサイル発射を受け、全国瞬時警報システム（Jアラート）で北海道や青森県などにミサイル発射と日本上空の通過を伝えたことにより、より日本に居住するあらゆる多様性をもつ住民が北韓に対して不安と脅威を覚えたのは事実です。

その上で、6回目の核実験を行ったことから、半島情勢がさらに緊迫化し、米国による軍事攻撃と米朝軍事衝突の可能性が懸念され、頭上から核兵器が落ちる可能性と不安がさらに増し、平和と生活が脅かされたことは、決して人間として許容できるものではなく、また同じ民族・ルーツをもつ人間としても、決して看過できないものです。戦争被害の歴史をもつ半島に、再度戦争を起こしてはなりません。

最後に、日本帝国主義により植民地化され、被支配を受け、差別と貧困が始まり、人間らしく生きる権利も奪われました。解放後も半島が南北分断し、支配国であった日本に余儀なく残留し、時間が過ぎ、世代を経て、私たち-in 日韓国人青年は3世・4世として生きています。その間、曾祖父母、祖父母、父母は、日本社会でのいわれのない偏見と差別に屈せず、日本社会において我々の世代へ人間として生きる権利や環境を築いてくれました。半島にルーツを持つ一員として、日本社会に生きる住民として、一刻も早い半島情勢の安定と平和統一を願っております。

2017年9月4日

在日本大韓民国青年会中央本部

会長 朴裕植